

アース製薬株式会社

2024年12月期第1四半期決算フォローアップミーティング 質疑応答要旨

【第1四半期業績について】

Q：営業利益の計画に対する上ブレ分（21.7億円）は、第2四半期以降も計画差として残るのでしょうか。また、粗利の上ブレ分（9.3億円）も残る可能性はあるのでしょうか。

A：営業利益の21.7億円という増益幅は実態より少し大きく出ている状況です。販管費は計画比で12.4億円の下方ブレとなっていますが、この大半は月ズレなどで今後消化が進んでいきます。粗利については、価格改定効果等によってプラスになっている点もございます。しかし、1Q時点で保守的に見立てている部分が2Q以降も継続するか否かは現時点では見通せない状況で、明確にご回答するのは難しいことをご理解ください。

Q：営業利益の変動要因の中の「モデルミックス・他7.6億円」の内容を教えてください。

A：国内の日用品が厳しい状況である一方で、虫ケア用品が計画通りの進捗、海外が順調であるという面の構成変化があります。また、価格改定効果もあります。

Q：第1四半期のBARTH事業の業績寄与の状況について教えてください。

A：BARTH事業は昨年度は3月からの貢献、今年度は1月からの貢献になり、売上高や成長率を単純比較しても意味をなさないため、回答は差し控させていただきます。しかし、今年度は新製品の発売等もあり、着実に成長している状況だにご認識ください。

Q：（補足資料6ページ参照）計画差が大きいバスクリン、アース環境サービス、中国についてご説明ください。

A：バスクリンは入浴剤の売上が計画を下回っていることが要因です。秋以降の最需要期に向けてリカバー策を進めていく状況です。アース環境サービスは保守的な計画に加えて、人件費といった費用が計画に対して下方ブレしています。売上の上ブレと費用の下方ブレによって、計画を超過しています。中国は戦略転換した効果により、売上と利益が伸びています。

Q：中国とアース環境サービスの計画に対する超過は今後も継続するのでしょうか。

A：中国は戦略転換し効果は出始めていますが、進捗を注視する状況ですので、現時点では継続するとは申し上げられません。アース環境サービスは、契約件数の順調な積み上げがありますので、ある程度の期待はあります。しかし、人件費の上昇等を踏まえると、1Qの利益の上ブレ幅が継続するかは不透明です。

Q：（補足資料2ページ参照）その他日用品が前年同期比で5.5%のプラスになっている理由を教えてください。防虫剤は苦戦しているのでしょうか。

A：当社グループの防虫剤も厳しい状況です。その他日用品には、防虫剤や消臭芳香剤等が含まれています。伸びをけん引しているのは、海外で扱っている住居用洗剤や衣類用洗剤となります。

Q：(補足資料 2 ページ参照) ペット用品・その他が前年同期比でプラスになっている理由を教えてください。価格改定はしているのでしょうか。

A：今期は価格改定を行っておらず、数量増が影響しています。ただし、このカテゴリにはペット用品だけでなく、半製品が含まれますので、これも影響しています。ペット用品だけの成長では1億円程度のプラスです。

【国内虫ケア用品について】

Q：1-3月の虫ケア用品市場の状況について教えてください。3月単月では市場が落ちたようですが、天候によるものでしょうか。

A：3月単月では昨年3月は市場が良く、その反動が出ているものと考えています。ただ、1-3月の虫ケア用品の年間に占める進捗率は低いため、今後の状況を見ていく必要があると考えています。なお、4月以降は非常に天候に恵まれており、足元では市場は2桁成長となっています。

Q：トコジラミ関連製品の業績貢献はありますか。

A：明確にトコジラミ用製品として区分が難しいですが、トコジラミに効くと訴求している製品については、多少のプラスはありますが、虫ケア市場全体に対するトコジラミの割合は小さく、直接的な寄与というよりもトコジラミ被害の報道等によるお客様への需要喚起による効果が大きいのではないかとみています。

【国内日用品について】

Q：入浴剤、洗口液のマーケットシェアの変動幅を教えてください。

A：対前年同期で、入浴剤は1.1ポイント、洗口液は0.6ポイントの低下となっています。

Q：日用品のシェア低下に対する今後のリカバー策を教えてください。

A：カテゴリ戦略の刷新、マーケティング投資の配分見直し等を進めており、現時点では詳細について説明は差し控えさせていただきます。

【海外について】

Q：タイ、ベトナム、中国の現地通貨ベースでの売上成長率を教えてください。

A：タイは14%、ベトナムは17.5%、中国は35%です。

Q：第1四半期時点の海外のマージンの変化率を教えてください。

A：(資料4 ページ参照) 管理会計ベースですが、海外の売上高と粗利率を記載しています。1Q時点での粗利率は36.3%となり、対前年で0.3ポイント、対計画で1.2ポイント上昇しています。

Q：「ARS Mos shooter」の売上貢献度を含めた今後の展望について教えてください。

A：当商品は7月からタイで発売いたします。この一品だけで今期の売上に対して大きな影響はございません。しかし、タイでの販売状況を踏まえて、今後の展開拡張を見極めていきたいと考

えています。

【価格改定について】

Q：今期の価格改定の対象は日用品も含まれるのでしょうか。

A：価格改定の対象 59SKU は虫ケア用品のみです。

Q：価格改定は行いやすくなっているのでしょうか。理由も含めて教えてください。

A：カテゴリごとの自社のプレゼンスによって異なると思います。虫ケア用品は高いシェアをいただいているため、比較的、価格改定は行いやすいです。一方で、入浴剤や洗口液は価格改定を行にくい状況です。高価格であっても買っていただけるようなブランドにするための下地作りを進めています。

【原材料価格高騰の影響について】

Q：今期の原材料価格の高騰影響は想定通りに進むのでしょうか。為替予約を行っているため、円安影響は受けにくくなるのでしょうか。

A：商社等、他社を経由して調達する原材料の価格についてはコントロールできません。しかし、当社が支払うものに対してリスクヘッジをするという目的で為替予約を行っています。今期の原材料価格影響を11億円で想定しています。計画立案時には保守的に為替を見ていましたが、現状では想定を超えた円安方向に動いているため、今後も動向は注視していきます。ただ、売上増や経費の効率化等でカバーはできるものと考えています。

【中期経営計画について】

Q：利益が想定より好調だった場合、中計の施策を早期に完了させるという考えはありますか。

A：当然、早期に完了させたいという考えはあります。しかし、施策によっては一定の期間を設けて進めていくものもあるため、3ヵ年という時間軸が現時点で変わることはありません。

以上